

## 糸魚川－静岡構造線活断層系の トレンチ調査結果について

### 1 トレンチ調査地点

糸魚川－静岡構造線活断層系については、昭和 60 年前後から各地でトレンチ調査が行われてきた（図 1）。平成 6～7 年度は、白馬（白馬村堀之内）、大町（大町市三日町）、小淵沢（小淵沢町松木平）、櫛形（櫛形町上宮地）の 4 地点で調査が行われた。

### 2 トレンチ調査の結果

平成 6～7 年度のトレンチ調査結果は以下のとおりである。

- ・白馬トレンチ（図 2）では、今から約 3 千年前に断層活動があったことが明らかにされ、更にこれとは別の、より新しい時期の断層活動を示す証拠が得られた。
- ・大町トレンチでは古墳時代（6～7 世紀）の土師器を含む黒土層を切る断層が出現し（図 3）、付近の地形及び考古遺跡のデータを考慮すると、この断層は古墳時代以降－平安時代以前に活動したとみられる。
- ・小淵沢トレンチでは、3 回の断層活動の証拠がみられ、このうち、最も新しい断層活動は今から約 1200 年前（奈良時代）以降に起きたことが明らかになった（図 4）。
- ・櫛形トレンチでは、数万年前の堆積物に撓曲変形が認められたが、最近 1 万年間での断層活動に関するデータは得られなかった。

### 3 最新活動時期及び歴史地震との対比

以上のトレンチ結果から、糸魚川－静岡構造線活断層系の活動履歴は図5のようにまとめられる。大町、松本及び茅野における最も新しい活動は、今から1200年前頃を中心とする時期に集中している。白馬と小淵沢についても、この時期に最新活動があったと考えて矛盾はない。

現時点で知られている歴史文書の範囲では、本活断層系周辺で発生したと推定される室町時代以前の歴史地震には、西暦762年の美濃・飛騨・信濃の地震と同841年の松本付近の地震がある。従って、糸魚川－静岡構造線活断層系の中～北部の最新活動は、これら2つの地震、あるいはそのいずれかに対応する可能性が考えられる。

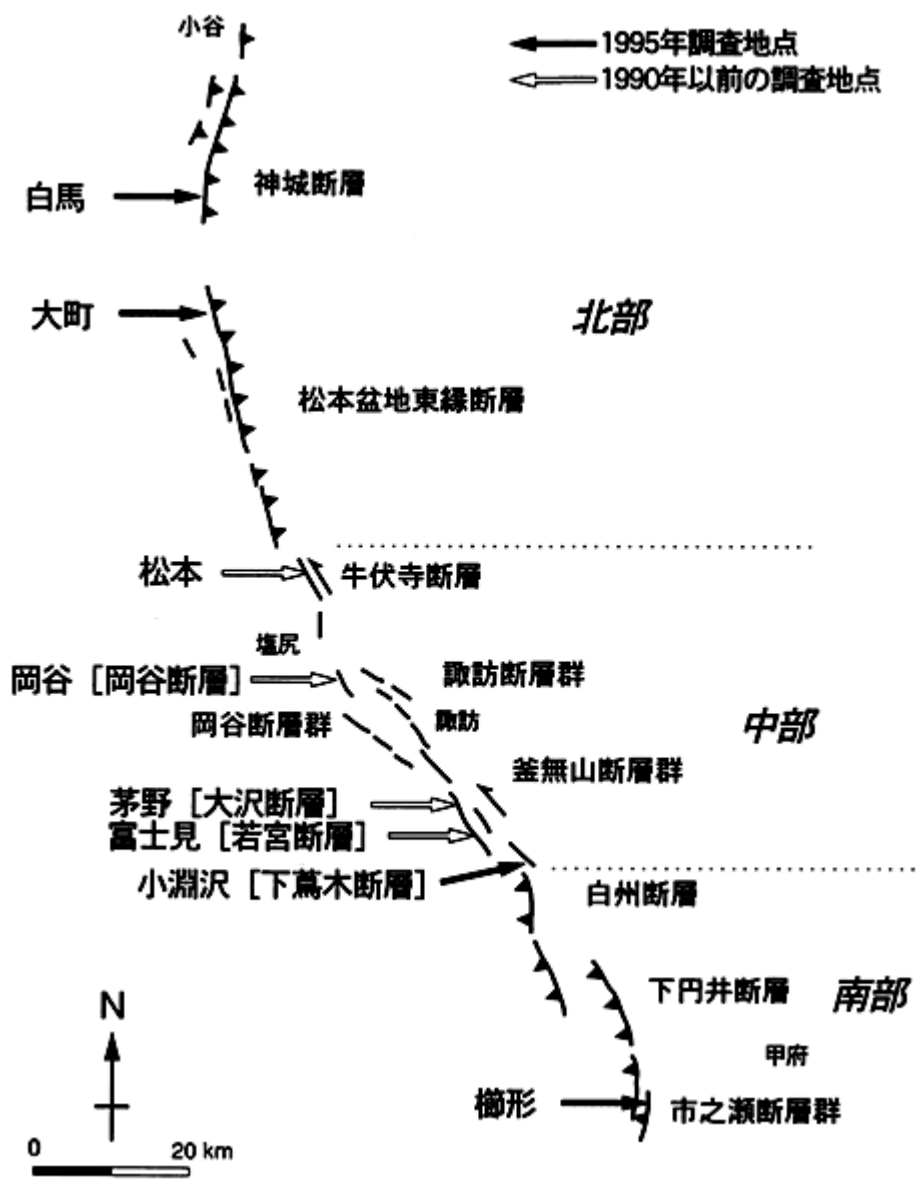


図1 糸魚川-静岡構造線活断層系の概要とトレンチ調査地点

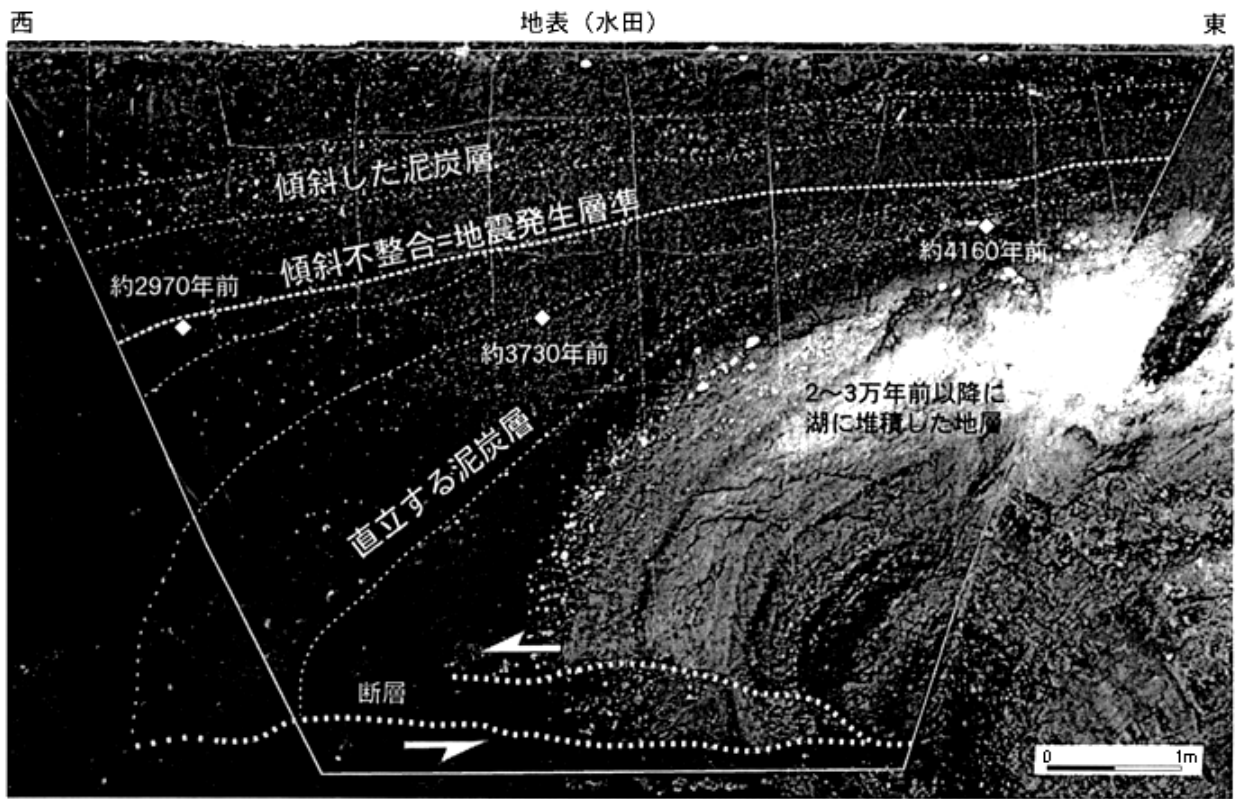


図2 白馬トレンチ北壁面

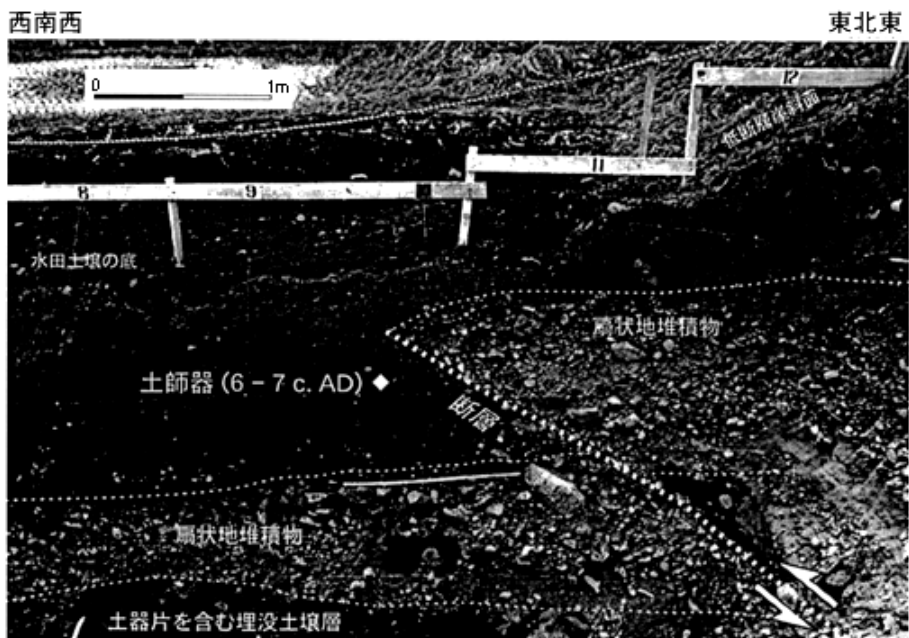


図3 大町トレンチ北壁面

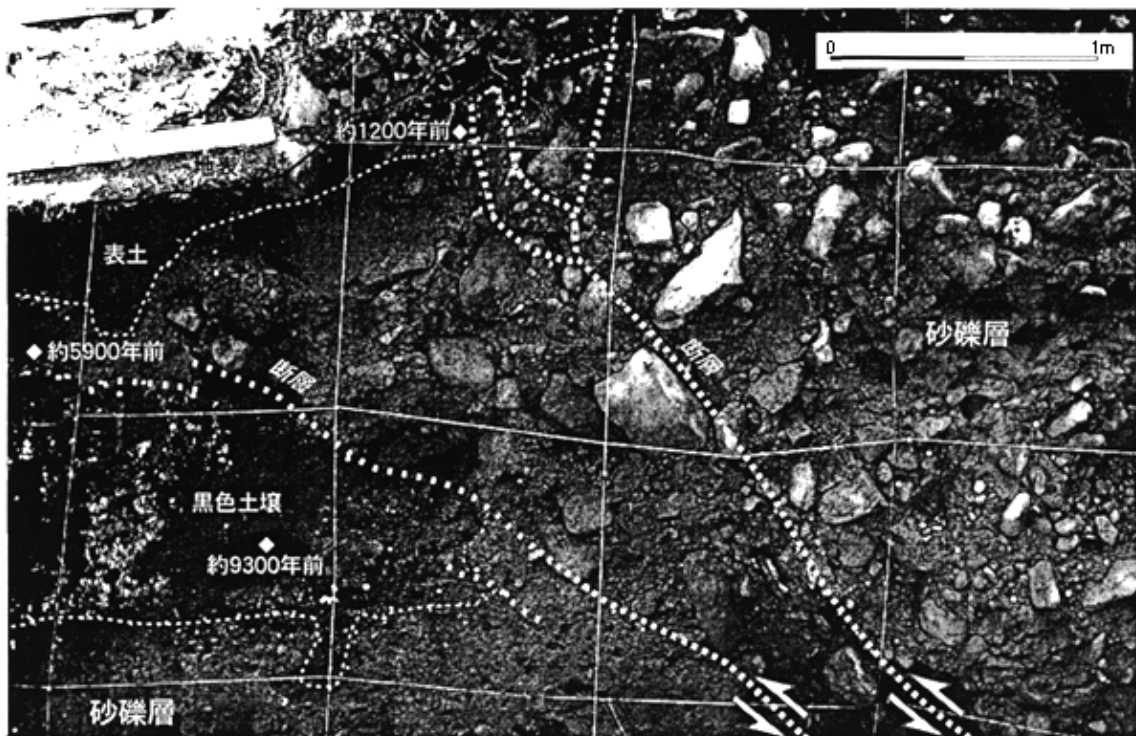


図4 小淵沢トレンチ南東壁面

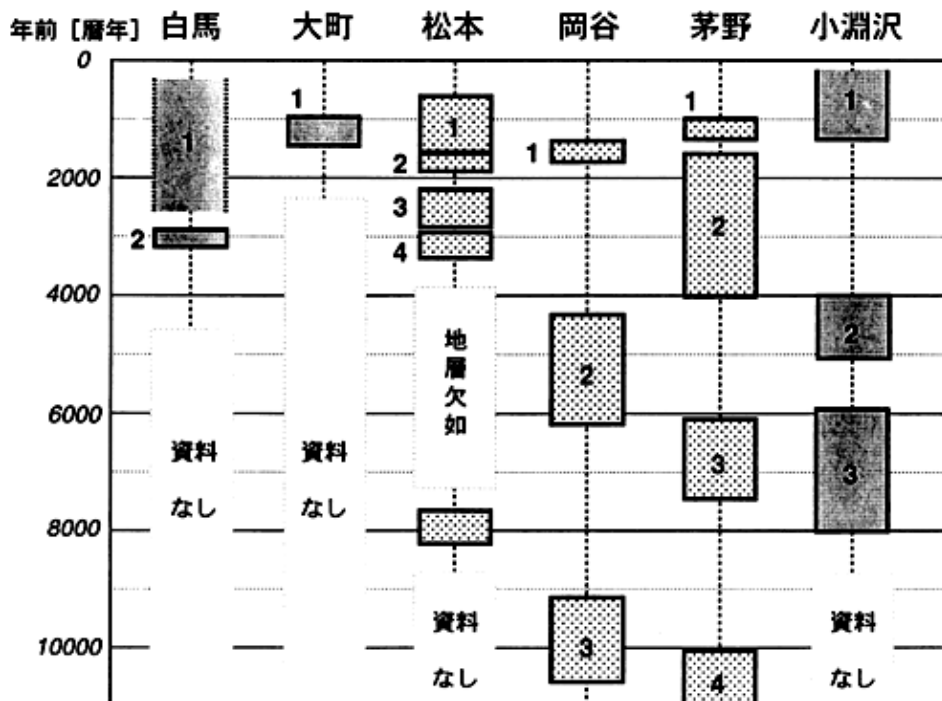


図5 糸魚川—静岡構造線活断層系における過去1.1万年間の地震発生時期  
 松本：奥村ほか (1994, 1995), 岡谷：東郷ほか (1988)  
 茅野：糸静線活断層系発掘調査研究グループ (1988)